

お礼 ～がんを「識」ることができましたか？～

第 44 回埼玉県医学検査学会会長 岩田 敏弘

去る 2015 年 12 月 6 日（日）大宮ソニックシティにおきまして開催された第 44 回埼玉県医学検査学会におきまして、1310 人の参加を得て、大盛會に終わりましたことをご報告いたしますとともに御礼申し上げます。

今学会は地区学会における新しいコンセプトに基づき、高度先進医療におけるチーム医療の一翼を担う立場として、「がん」にテーマを絞って開催しました。

塚本泰史さんのヤングジェネレーションセミナーは、学会場ですすり泣きすら聞こえたほど想いのこもったものでした。7 会場で開催されたランチョンセミナーは、いずれも全国学会なみの講師と内容で、想定よりも早く完売したばかりでなく、立ち見まで出た会場もあったそうです。200 席の大会場で行われたクイズ企画はオーディエンス機器の不調が妙な団結心と一体感を生んで印象深いものになりました。関根智紀先生のエコーライブは最高の被験者を迎え、がん描出のテクニックを余すところなく満喫することができました。市民公開シンポジウム「がんと言われた日に」は、リレーフォーライブのつながりのまま 135 名もの市民に参加していただき、3 人の講師によるわかりやすい講演は多くの市民からも大好評をいただきました。また市民に対して「臨床検査技師とは何か」というお話をされた宮島喜文日臨技会長にも感謝をしなければなりません。特別講演の落谷孝広先生が講演された最先端を行く次世代プロジェクトの話題は、すべての人が「もっと聞きたかった」と言う感想だったと聞いています。いずれの企画も実行委員一同が練りに練り上げた企画だったので、満員の会場を見たときは万感の思いでした。

今学会、早朝から始まった一般演題と多くの学会企画をほぼ大過なく終えることが出来たのは、貴重な講演をいただいた先生方はもとより、一般演題に発表し、また参加された会員の皆様、裏方として企画やセミナーを支えてくれた賛助会員の皆様、当日のお手伝いをしてくれた理事・実務委員の皆様、期待に胸を膨らませた学生さんたちのおかげだと思います。

そしてどれだけ感謝しても足りないのが、吉岡浩明実行委員長をはじめとする実行委員の面々。豊富な知識と新鮮なアイデア、緻密な企画、周到な準備、卓抜した情報共有力、一人ひとりが年齢や経験にとらわれることなく、存分に持てる力を発揮して、誰ひとり欠いても成し遂げることが出来ない想いのこもった学会を作り上げることが出来ました。三国志では「桃園の誓い」が有名ですが、私たちの団結力は「江南苑の誓い」として語り継がれることでしょう。

最後になりますが、語りつくせぬ感謝を胸に、今学会の公式記録を公表し、皆様のご批判を仰ぐとともに、来年、第 45 回学会へのバトンタッチの言葉としたいと思います。

「わがままを実現してくれて、ありがとうございます」そして「皆さん、がんを識ることができましたか？」

第 44 回埼玉県医学検査学会開催の記録

- ◎開催日 2015 年 12 月 6 日 (日)
- ◎会場 大宮ソニックシティ小ホール・市民ホールなど 11 会場
- ◎参加総人数 1310 名
- ◎市民公開シンポジウム参加市民 135 人
- ◎招聘講師数 18 名 (ランチョンセミナー含む)
- ◎一般演題数 114 題・CM 演題 16 題
- ◎協賛企業数 66 社
- ◎ランチョンセミナー弁当数 490 食
- ◎抄録発行部数 2,800 冊
- ◎市民向けポスター1000 部 (会員・協賛施設、埼玉県内コミュニティセンター等)
- ◎ヤンジェネ・市民向けプログラム 300 部



2016.01.08 賀詞交換会 学会長挨拶より